

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

通学課程（学部）

<p>全学共通教育</p>	<p>全学共通教育は、教養教育、初年次教育およびキャリア教育を担っており、そのカリキュラムは、「心と体の健康管理」、「現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本知識と技能の習得」そして「幅広い教養を身につけた自立する市民の育成」の3つの教育目的を柱とした5つの科目群「人間を考える」「言葉とコミュニケーション」「歴史と文化を知り、創る」「社会の営みを理解する」「自然と科学を理解する」をもって編成されている。このカリキュラムは、学生が各分野の知識・技能を得るだけでなく、生きた教養を身につけることによって「自己教育」に目覚め、健康で心豊かな自立した市民となるよう構成されている。</p>
<p>1. 理工学部</p>	<p>総合理工学科 理工学部は、「学ぶ意欲に火をつける体験学習」と「問題を発見し、解決できる実践力を身につける専門教育」を柱としたカリキュラムを編成する。1年生では理工学部共通の科目として、「プロジェクトⅠ」と「理工実験・実習Ⅰ」を配置し、体験学習を通じて理学と工学の基礎的な素養を修得させる。2年生以降には「学系科目」を配置し、学生が選択した専門領域の基礎から応用までの知識と技術を修得させる。また、4年間を通して配置するプロジェクト科目や実験・演習科目および卒業研究を通じ、コミュニケーション能力、チームワークスキルを養う。</p>
<p>2. 人文学部</p>	<p>(1) 国際コミュニケーション学科 留学・フィールドワーク等の体験学習を通じて、英語・中国語を中心とした言語コミュニケーション能力を向上させる。同じく体験学習を通じて、学習したスキルを実践的に活用し、自発的な活動を産み出す企画力、グループ活動に必要な組織運営能力といった非言語的なコミュニケーション能力を身につけさせる。</p> <p>(2) 人間社会学科 まず、レポート作成やプレゼンテーション等の基礎的な学習スキルを習得するとともに、社会学的な考え方を基礎づけている理論・学説史的背景を学ぶ。そのうえで、ミクロからマクロにいたる多様な切り口から、社会的事象を論理的かつ複眼的に分析・考察する力を養う。また、社会調査の手法を学び、社会的事象を実証的に分析する力を身につけさせる。</p> <p>(3) 日本文化学科 日本語力の確実な養成を基盤に、外国語および外国文化への目配りを怠らず、歴史・伝統を正しく踏まえつつ日本文化全般についてその本質と特長を実践的に学び、多方面に発信できる人間性を涵養する。</p> <p>(4) 福祉実践学科 1. 社会福祉全体および児童・高齢・障害・地域等の各分野における思想・理念・実践技術を体系的に学ばせる。</p>

	<p>2. 工学・マイノリティ・多文化・障害学等のコラボレーション科目を通して、学習の進化と深化を図る。</p> <p>3. 学内での演習で基礎的な実践力を身につけさせる。</p> <p>4. 社会福祉や精神保健福祉の現場および福祉系企業での実習や海外研修を通して、福祉職業人・福祉社会人となるにふさわしい応用力を身につけさせる。</p>
3. 経済学部	<p>経済学に加えて法学・商学・会計学の分野を「ビジネスグローバル社会」「金融・会計」「公共政策・法律」の3つのコースに分類して科目を展開する。1年生と2年生に基礎科目を、3年生に発展科目をそれぞれ配置し、各分野の考え方を体系的に教育する。また、1年生から4年生まで少人数のゼミナールを必修とし、主体性・プレゼンテーションスキル・実践的な問題解決能力等を修得させる。さらに、学生が目指す将来に合わせたキャリア科目を設置する。</p>
4. 情報学部	<p>コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよび数学にかかわる基礎知識を修得したうえで、コンピュータアーキテクチャの理論と応用を学ぶコンピュータ科学コースと、プログラミングを基礎としてコンピュータの応用技術を学ぶソフトウェア技術コースに分かれ、それぞれの分野で実践的なプログラミング能力を修得し、問題を発見・解決する能力を修得させる。</p>
5. 教育学部	<p>教育学科は「小学校教員コース」「教科専門コース」「特別支援教員コース」「子ども臨床コース」の4コースを設置し、教員または保育者養成を主目的とする教育課程を編成する。少人数クラスによる「教育学基礎演習」(1年生)、「教育実践ゼミ」(3・4年生)では、教育の諸問題に関する意見交換や考察を通して、教育への幅広い視野を育てる。「教育インターンシップ」(2年生)では、教育の現場において、教員としての視点と実践力を養う。これらの必修科目を柱に、教育に対する深い理解と実践力を身につけさせる。</p>
6. 経営学部	<p>経営学部の基礎理論をもとに、起業教育を軸にした実践的な体験学習の機会を多く設け、「多摩ブランド創生」「観光・ブライダル」「事業承継・起業」「金融・会計プロフェッション」「高度実務人材育成」の各コースで体験的に学習する。併せて、「キャリア開発」分野を並行して学ぶことで、高い教養と経営に関する専門知識と技能を持ち、企業経営に関する問題発見と解決能力を身につけさせる。</p>
7. デザイン学部	<p>デザインを「企画×表現」と捉え、今日の社会やデザインの現場で本当に求められる力を総合的かつ実践的に育てる。1年生からモノづくりの基礎知識や基本技術を学び、2年生から「視覚デザインコース」、「生活デザインコース」の計6分野を複数選択しながら、様々なデザイン分野での応用力を養う。こうした知識や技術を1年生から4年生前期まで7半期にわたる必修の「企画表現演習」でさらに発展的に応用し、企画力(分析力、発想力、統合力)と表現力(美的構成力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力)を総合的に身につけさせる。</p>
8. 心理学部	<p>学位授与方針の達成のために、1・2年生では基礎科目と幅広い基幹科目とを、そして、3・4年生ではより専門的な発展科目と卒業研究のための研究実践科目(専門演習)とを配置している。特に、2年生で開講され少人数制で実施される心理学実験法や心理学検査法では、学生1人1人に対して教員が丁寧な指導を行うことによって、3・4年生での研究実践科目における専門的学修の最終成果である、科学的・実証的な卒業研究の完成を担保する。</p>

	<p>また、このカリキュラムは、「心理学の専門的な仕事をするために必要な基礎学力と技能とを修得している」ことを保証する公益社団法人日本心理学会の「認定心理士」資格、ならびに、その上位資格である「認定心理士（心理調査）」資格を満たすものである。</p> <p>さらに、実際の臨床の場における実践能力の修得を目的とする臨床実践科目を設けるほか、心理学部での学びが社会貢献に円滑に結びつくように、学科科目としてキャリア形成科目も設置する。</p>
--	--